

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称：特定非営利法人 環境・福祉事業評価センター	所在地： 長野県長野市南高田2-5-16
評価実施期間： 令和6年7月1日から令和7年1月29日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050301 B16024 B18055	

### 2 福祉サービス事業者情報（令和6年9月現在）

事業所名： （施設名）長野市真島保育園	種別： 保育所
代表者氏名：市長 荻原 健司 （管理者氏名）保育・幼稚園課課長 宮下 卓朗	定員（利用人数）：85名（60名）
設置主体：長野市 経営主体：長野市	開設（指定）年月日： 昭和27年4月20日
所在地：〒381-2204 長野県長野市真島町真島1425-1	
電話番号：026-284-3637	FAX番号：026-284-3637
電子メールアドレス：mashima-hoiku@city.nagano.lg.jp	
ホームページアドレス：http://www.city.nagano.nagano.jp/	
職員数	常勤職員：16名 非常勤職員 22名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士 13名 保育士 13名
	看護師 1名 調理員 8名
	調理員 2名
施設・設備 の概要	（居室数）
	・乳児室 1室 ・保育室 3室 ・調理室 1室 ・事務室 1室 ・遊戯室 1室
	（設備等）
	・鉄棒 ・滑り台 ・雲梯 ・砂場

### 3 理念・基本方針

長野市の理念 子どもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。 児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。 子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。
教育・保育の基本方針 安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。 専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。

保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。

家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。

保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します。

### 保育方針

自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、健康で安全な生活を作り出す基礎を培います。

- 異年齢や地域の方・お年寄りとの交流を深め、人と関わりをもつことを大切にします。
- 保護者の気持ちを受け止め共に子育てをし、開かれた保育園を目指します。
- 好奇心や探求心をもって人や物に関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てます。
- 満足度や達成感を得られる体験を通し、自信をもち自分を好きになれるようにします。

### 真島保育園目標

見て 聞いて 感じて 考えて  
とことん あそぼう！

## 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

真島保育園は長野市が直接運営する保育園で、当初は旧真島村真島に真島保育園として開設し昭和27年4月に児童福祉法により認可され、真島小学校舎の一部を借りて保育が始まった。その後、昭和31年1月、真島村が青木島村、稲里村、小島田村と合併し更北村真島保育園と改称された。昭和31年11月に小学校の改築に伴い現在地に園舎が新築され、昭和41年10月、更北村が、長野市、篠ノ井市等、2市3町4村で合併したことにより長野市に移管された。昭和60年に新校舎が完成し、平成30年度にトイレの全面改修が実施され、現在に至っている。

真島地区は長野市街地の東南部に位置している。真島保育園の園歌にあるように梵天、本道、中真島、前淵、北村、堀之内、川合、四ツ橋の集落からなり、長野南バイパスから犀川にかかる五輪大橋に向かう道を南に入ったホワイトリング（長野市真島総合スポーツアリーナ）の東側にある。真島小学校と隣接し、校庭を利用してマラソンを行っている。入所家庭は兼業農家で三世帯家族が多いが、最近は核家族家庭も増えてきており就労と子育ての両立を支援している。

真島地区には清水神社、JAセンター、郵便局、地区公民館、アクアパル千曲（千曲川流域下水道施設）がある。周りはりんご、ブドウ等の果樹や水田も多く田園地帯である。散歩は小学校、神社、ホワイトリング、千曲川の土手、アクアパル千曲など散歩や探索の場が多くある。令和元年9月には「信州型自然保育（信州やまほいく）」の普及型の認定を受けている。豊かな自然や施設を利用した散歩等の園外活動を多く取り入れて、知力と体力を高める工夫をしている。

隣の真島小学校へは、卒園後多くの子どもたちが就学している。「幼・保・小の連携」

は良く、年長の子どもたちは、アプロ - チプログラムに基づき小学校の音楽会や運動会に招かれ、授業参加するなど定期的に交流している。また、更北中学校の生徒が職場体験として来園し子どもたちと交流している。

当園は、0歳児と1歳児13名のノントン組、2歳児9名のバンビ組、3歳児12名と4歳児9名のピノキオ・トムソーヤ組、5歳児16名のエルマー組の4クラスがある。通常の保育に加え入所家庭のニーズに合わせ時間外保育、一時預かり、おひさま広場のサービスを提供している。保育理念、基本方針、保育方針、園目標の実現に向け、全体的な計画に基づき、一貫性をもって子どもの実態に応じた柔軟な保育を実践している。具体的には年間指導計画、月週の指導計画・個別計画、年間行事計画、食育計画、保健計画や危機管理の計画が作成され2024年度の事業計画にまとめられている。中期計画では、第三者評価受審、やまほいく更新、長野市運動プログラムの充実を図る。運動と遊びのプログラムの活用で運動機能の育成を図ることを掲げている。

今年の重点課題は 保育内容充実 保護者支援 安全・安心な保育の実施 小学校との連携の推進 地域の子育て支援 職員の資質向上 労働環境の改善である。地域の子どもの減少、地域外からの通園の増加、多様な保護者等の環境変化に応じ職員と連携を良く取り保育所保育指針に基づき、利用する子どもの心身の状況等に応じて、教育・保育を提供している。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	2回（令和元年度）
---------------	-----------

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

特に良いと思う点

利用者満足度が高い

第三者評価の手法の一つとして、保護者等の利用者調査を実施している。その結果、報告書としてまとめている。利用者60人中調査対象者48人の内20人からの回答は、「はい」の項目の多くが80%以上となっており、保護者の満足度、信頼が高いと判断できる。総合的評価では、無回答を除き「大変満足している」「満足」「どちらかといえば満足」が100%であった。特に、全員「はい」の項目は、問2「保育園の基本的な考え方（保育目標・保育方針）は子どもの人権を尊重している」、問3「保育園の基本的な考え方には納得している」、問4「日頃の保育園の職員の行動等は、保育園の基本的な考え方と一致している」となっており、園の保育目標や保育方針が丁寧に説明され、納得していることが伺える。また、問5「お子さんが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気ですか」、問8「登校時に、家庭でのお子さんの様子等について、園に気軽に声をかけることができますか」、問10「散歩等で戸外にでる機会は多いですか」、問11「お子さんの発育や意欲を促すような活動・遊び等が行われている」、問12「担当保育士はお子さんの良い所や個性を認めていますか」、問14「お迎え時に、園でのお子さんの様子等について、園から気軽に話を聞くことができますか」、問15「お迎えの時に、お子さんが満たされた表情や喜んだ表情をしていることが多いですか」、問17「保育中の発熱などの病気への対応は適切ですか」の8項目は90%以上の方が「はい」と回答しており、子ども、基本的な保育について保護者の満足度が高い結果となっている。

自然を活かした保育

園目標に「見て 聞いて 感じて 考えて とことん あそぼう！」を掲げ、今年の重点課題では、保育の充実として「自然を生かした保育を行う」「遊びの環境を充実させる」としている。「信州型自然保育（信州やまほいく）」の普及型の認定を受けており、令和6年度に認証を更新している。

園の周りの環境は、りんご、ブドウ等の果樹やたんぼが広がる豊かな自然環境に恵まれている。小学校、神社、ホワイトリング、千曲川の土手、アクアパル千曲など散歩や探索の場が多くある。田

んぼでのどろんこ遊び、畑を借りてじゃがいも作り、ぶどう狩り、りんご狩り、焼き芋会等地域の活動と合わせて年間を通じて日常的に実施されている。また、天候に関係なく、雨の日もホワイトリングに散歩に出かけており足腰を鍛えている。異年齢で関わりながら遊ぶことも大事にしている。「土手で草花を見つけて遊ぶ」では、3歳、4歳、5歳児が、田植えの準備をしている人に会ったり、土手でアカツメクサの花やダンゴムシを見つけ、友達に見せたり教えたり、土手で思いっきり直線を走ったり、坂を上り下りして異年齢ならではの保育を行っている。園外保育実施の際は、事前に担当保育士は下見をし、引率者、ねらい、危険箇所、携帯品等を確認し、園外保育記録簿に反省を記録し、安全に配慮している。こうした多様な自然を活かした保育を積極的に行っており特に良い点として評価できる。

#### 地域に根差した保育

真島保育園には、浅井烈作詞の園歌があり、幼児のクラスでは、保育士のピアノ演奏で園児が元気よく園歌を歌い、遊戯室にはその歌詞の額が掲げられていて、その歴史を感じさせる。当初は旧真島村真島に真島保育園として開設し、地域の中核の施設として現在に至っている。利用者調査では、「行事等を通じて、地域住民との交流を図っている」では、85%が「はい」と回答している。保護者からは「地域の方との交流があったり、田んぼや園庭での泥んこ遊びで、園の行事の内容は充実していると思います」というコメントがある。地域の活動では、農業や伝統文化に触れ、体験し、地域の方に、保育園の子どもの様子を知ってもらって相互理解を深めている。散歩中に、脱穀している農家の人や、仕事を中断して梨やりんごを子ども達にプレゼントしてくれることもあり、地域の人にも愛されている。畑作り、田んぼでの泥んこ遊び・田植え、養蚕・桑の葉取り、焼き芋会、しめ縄作り等地域活動事業が活発に行われている。また、「おひさま広場」と称して、毎週木曜日に園を開放し、看護師相談会、絵本の読み聞かせ等で地域の未就園児親子の参加を促して、子育て支援事業を実施している。こうした地域に根差した活動を積極的に実践しており特に良い点として評価できる。

#### 小学校や地域との連携

真島保育園は、真島小学校の敷地と隣接していることから、子ども同士の交流や職員の連携が取りやすい。子どもも職員も気軽に外向いて交流ができる。災害時には、小学校が避難先になっており防災合同避難訓練を実施している。園の敷地から、自由に小学校へ移動でき小学校との連携がよく取れている。今年重点課題では、小学校との連携の推進を掲げて取り組んでいる。小学校へは、卒園後多くの子どもたちが就学している。「幼・保・小の連携」は良く、年長の子どもたちは、アプロ-チカリキュラムやスタートカリキュラムを作成し、それに沿った交流を進めている。小学校の運動会には年長児が招待されて、かざぐるま拾いに参加し、小学生との交流を行っている。また、校庭を利用しマラソンを行っている。子ども達も小学校を身近に感じながら生活しているので、就学への壁が低くなっている。また、真島地区とは、保護者自身が地域と密につながっている方が多い為、保護者同士のつながりも多い。また保護者を介して地域の団体ともつながりやすい。また、地区の農家の理解をいただき、畑で遊ばせてもらいながら、農業や伝統文化に触れ、体験し、地域の方に、保育園の子どもの様子を知ってもらい相互理解を深めている。

#### 特に改善する必要があると思う点

##### 安全・安心への継続的な取り組み

保育園のエアコンは、各保育室に設置されており、温度について適正になるように管理されている。部屋が広いため、保育士が扇風機等を使って空気を循環するように環境配慮しているが、家庭用エアコン等で能力が低い機器もあるため最近の猛暑に対応できるか現場の意見を参考に検討することを期待する。また、利用者調査では、「外部からの侵入に対して安全な対策がとられていますか」については「はい」が50%と少なかった。前回の利用者調査結果から改善しているが保護者への説明や周知について取り組みの余地がないか検討されることを期待する。労働安全衛生法は、化学物質のリスクアセスメントが求められるように改正されている。園では安全衛生年間計画書等で、危険有害物に関する情報の共有で、安全データシート(SDS)の入手、ラベル表示等の項目は、周知等の具体的取り組みは確認できなかった。保育園では、コロナウィルス等の衛生管理のため「次

亜塩素酸ナトリウム6%溶液」を使用し、希釈して使用している。衛生管理で使用するものの安全性については問題ないと判断されるが労働安全衛生法の危険有害物に該当するか、使用する人が注意すべき点はないか検討されることを推奨する。園では、災害を想定したさまざまなマニュアルを作成し、訓練も実施している。新しく事業継続計画（BCP）が作成されて運用が始まっている。引き続き災害から復旧までのプロセスは定期的に訓練を実施し課題がないか検討されることを期待する。

#### 蛍光灯からLED化への推進

園舎の照明は蛍光灯が使用されている。近年「水銀に関する水俣条約」、「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」等に基づき製造が2027年末に中止することが決まっている。理由は、蛍光灯は水銀を含んでおり、環境や健康に悪影響をもたらす可能性があるため、使用することには高いリスクがある。また水銀は、蛍光灯等が破損した際に環境に放出される可能性があり、環境を汚染する可能性がある。また、水銀は人の神経系に悪影響を及ぼし、特に小児や胎児に対して重大な健康リスクを引き起こす可能性も高い。このため、蛍光灯は水銀使用製品産業廃棄物に指定され、廃棄物処理法でも廃棄予定の蛍光灯を園内に保管する場合、保管場所の表示や保護について定められている。使用については問題ありませんが、環境への配慮、製造が中止されると購入が難しくなる点や、使用電力の削減効果を考慮し計画的にLED化されることを期待する。

#### 水害の避難場所

水害については、洪水ハザードマップのレッドゾーンに位置している。近くに千曲川が流れており、氾濫すると大きな影響がある。園では、災害のリスクに備え、「洪水時の避難確保計画」、「風水害発生マニュアル」、「事業継続計画（BCP）」が策定され水防法に基づく「避難確保計画」と厚生労働省令に基づく「非常災害対策計画」が個別に策定されている。地震や火災、風水害想定訓練や保護者への引き渡し訓練が実施されリスクを意識した取り組みが行われ見直されている。「風水害発生マニュアル」の避難先は真島小学校になっている。保護者へは、4月の園だより、重要事項説明書等で周知している。また、水防法での避難先は「青木島小学校3階以上」になっており、手順では警戒体制化で非常時体制に移行するおそれがある場合「保護者及び緊急連絡網の関係者に「非常態勢に移行した場合は『青木島小学校の3階以上』へ避難します」と連絡し、避難完了時に「園児の引き渡しは『青木島小学校』において行う」旨の報告することになっている。避難場所、避難経路、避難のタイミングはあらかじめ定められているが、避難場所の青木島小学校までは、約3.5kmあり車で約7分の距離にある、場合によっては車での避難ができない恐れがある。また、園は垂直避難ができない。「風水害発生マニュアル」の避難先と水防法に基づく「避難確保計画」の避難先をどのように優先し選択するかわかりづかった。状況の変化で急にレベル5の緊急安全確保になった場合等、計画通りの避難ができないケースが予想される。その場合、現場での緊急の判断が求められ「青木島小学校」以外の避難先も検討することが必要なケースがあると思われる。判断時期についてはレベル表示があるとわかりやすい。再度、水害について「洪水時の避難確保計画」、「風水害発生マニュアル」、「事業継続計画（BCP）」の内容を検討されることを推奨する。保育・幼稚園課とも相談の上、さまざまな想定での対策と訓練を実施し内容を充実されることを期待する。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添1）

内容評価項目（別添2）

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）

（令和7年1月22日記載）

今回、第三者外部評価を受審するにあたり、全職員で各種マニュアルの確認を行い、長野市の保育理念や基本方針、園目標の基、子どもに寄り添う温かい保育が行われているか、また園内外の環境構成は子どもの発達を促すものとなっているかについて、園内研修を重ねることで職員の意識や保育の質の向上に繋げてきました。

特によいと思われる点（評価結果総評）

- 1）利用者満足度
- 2）自然を活かした保育
- 3）地域に根差した保育
- 4）小学校や地域との連携

に関しては、今年度の事業計画の重点課題の項目であり、力を注いでいることでもあるため、職員の大きな励みとなりました。今後も継続していきます。

改善する必要があると思う点（評価結果総評）

- 1）安全・安心への継続的な取り組み
- 2）蛍光灯からLED化への推進
- 3）水害の避難場所

に関しては、今後の課題として職員全員で対応を考えるとともに、消防や市担当課からの助言を仰ぎながら、検討し対応していきたいと思えます。

調査者様からの視点で自園の強みと弱みを示唆していただくことにより、客観的に教育・保育の振り返りができ、職員の士気を高めることができました。

保護者の皆様にはお忙しいところ、アンケートにご協力いただき感謝すると共に、皆様からいただいたご意見ご要望については、今後の運営に生かせるよう職員一同で検討し、今後もより良い教育・保育の提供を行うために改善し、子ども達及び保護者の皆様の最善の利益に繋がるよう努めてまいります。

最後に、第三者という視点で評価していただいた特定非営利法人環境・福祉事業評価センターの皆様には深く感謝申し上げます。